

「LRRI 役員だより」 令和5年 12月号

困りごとと障害、そしてシニアは！？

最近、年末を迎え、慌ただしさにまぎれ失念することが多くなってしまった。加えて、歳を重ねるにつれ、思い違いをしたり、行動が鈍くなったように感じられる日々を過ごしている。何かあると家内が声かけしてくれるが、一人でいるときが心もとない。この一年、エルリの活動でも、いろいろご迷惑をお掛けしたこと、ご容赦いただきたい。

先日、夕方新橋駅でゆりかもめから JR に乗り換える階段の最後の数段で、気を許したか、なぜかつまづき、転んだ。夕方ということ、また最後の数段ということで、大した事もなく(私なりに、コンクリートに手をつき、膝を打ち大きな痛手であったのだが)声を掛けられることもなく、若干気恥ずさから落ち着ける場所まで、逃げ込んだ。また、JR 品川駅で中央コンコースから常磐線ホームへは上りエスカレータはあるが、下りエスカレータがない。私のような者にとって、下り階段の方が恐怖であり、大きな荷物を転がして来た者にとっては辛い。最近、やっと電車の最後尾側の通路にエレベータがあることを知ったが、2次的な設置であり、案内もわかりにくい。自分自身の加齢と足腰の弱さのせいだとは思うがなぜエスカレータを標準な選択肢とできないのであろうか。ちなみに、デパートやショッピングモールでは、エスカレータとエレベータが主であり、階段は予備的設置である。自分自身が困りごと当事者になったのだと思はざるを得なかった。困りごとは個人的なことではあるが、その困りごとに対し、環境および社会が配慮できていないことが、当事者にとって障害となると考えている。筆者はこれまで、ICT を活用した障害者支援、普及活動を進めさせて頂いてきた。この一文でも、本来は困りごとと当事者支援と表現すべきかもしれない。障害はもちろん個人の特性によるものもあるが、社会や環境の配慮がなされていないことに起因するもので、障害を考えるにあたって、個人的な「医学モデル」に対比して「社会モデル」という考え方を自ら感じた次第である。

話は変わるが、最近の困りごととして、専用端末やスマホを利用した「セルフレジ」に未だ慣れないことである。また、ショッピングモールやチェーン店舗のスマホアプリが多様化し過ぎて、私ごときではとてもついて行けない。イオン系列だけでも「モバイル WAON」の電子決済アプリと最近リリースされた「iAEON」アプリを含めると5種類のアプリが存在する。デジタル化を推進し、情報通信の専門を標榜する者として一応全て試してみるが、どうも合点がいかない。これを障害と捉えるかは別として、もう少し統合化や簡素化ができないものであろうか。最近、安原代表から「リスクリング」なる言葉を良く伺う。今後、少子高齢化が進む日本経済社会でシニアの活用は重要課題と考えている。技術者として、「リスクリング」しやすい技術や方法とはどのようなものであろうか。エルリの活動の中で、是非考えさせていただきたいと思っている。

この一年の会員皆様のご協力、ご支援に感謝したい。

副代表理事 須田裕之(令和 5 年 12 月 23 日)